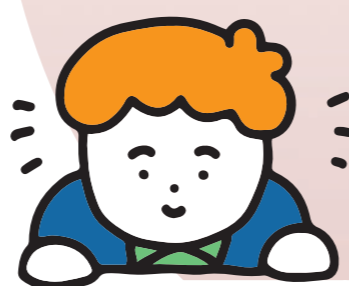


江戸切子は江戸時代末期(1834年頃)から現在まで、東京都で生産されているガラス工芸品。色付けされたガラスを繊細に削ることで見事な文様を生み出す。デザインの下絵は描かずに、印や線を目安に職人の経験と感覚を頼りに削っていく。手仕事が生み出す美しいカットは、伝統的な文様だけでも約20種類。ライトを当てるとまるで光のマジック!



全部で
42品目

©江戸切子協同組合



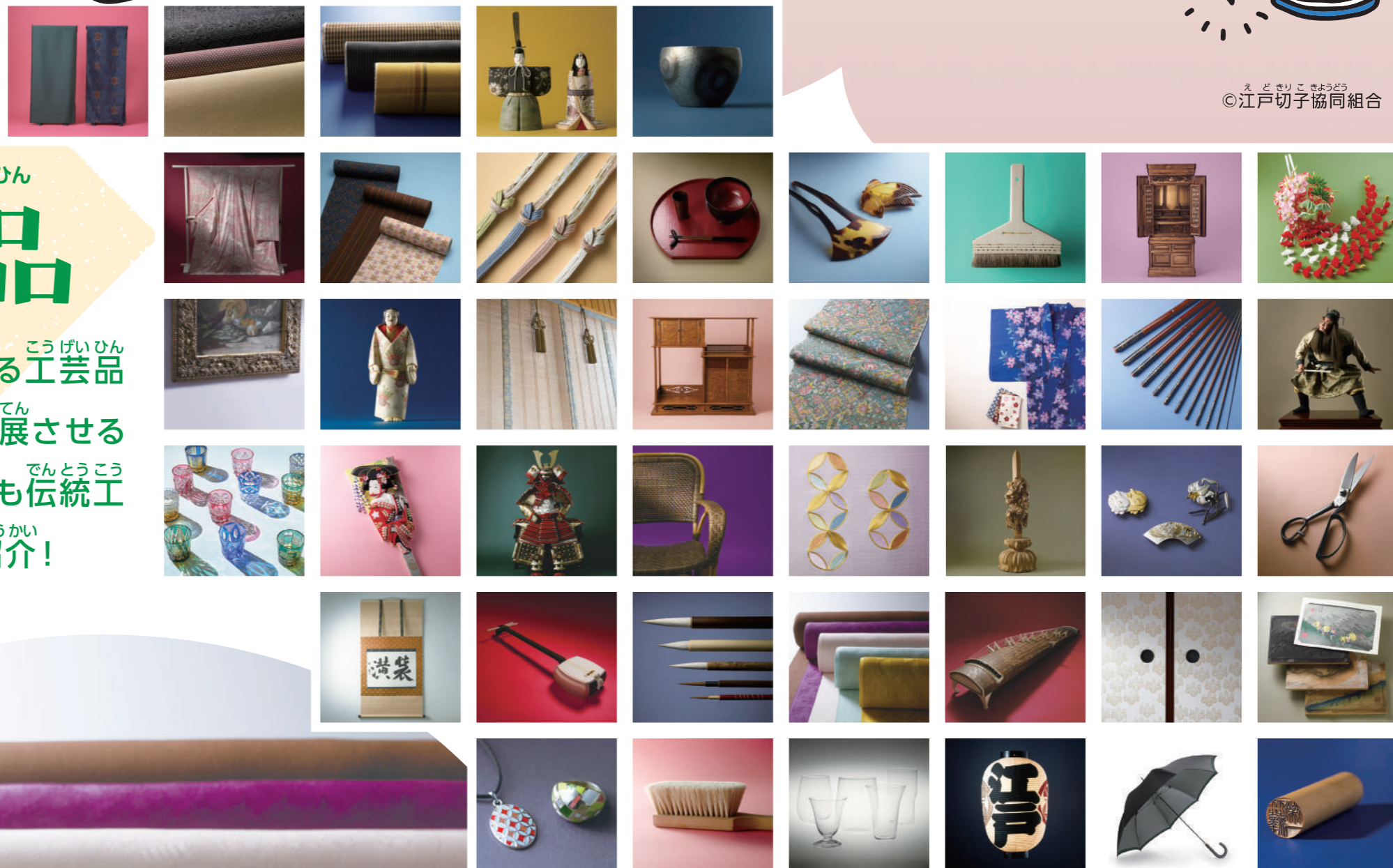
カットガラスの芸術
江戸切子



©江戸切子協同組合

東京都の 伝統工芸品

伝統工芸品とは、100年以上前から伝わる工芸品のうち、後世に継承するために保護し、発展させることを目的に指定されます。実は東京都にも伝統工芸品が42種類もあります。その一部をご紹介します!



東京無地染

自然から生まれた色彩



東京無地染はお客様から渡された真っ白な生地を、注文された色に端から端まで均一に染め上げる伝統工芸。職人は基本となる3色の染料を混ぜ合わせ、生み出す色彩はなんと180種類。染料の濃度やつけ込む時間を調整し、オーダーの色にぴたりと合わせる。微妙な調合が求められる職人の色彩感覚は、経験を通して研ぎすまされていく。



色見本の色を再現するには、10年以上の修業が必要

TOKYOクイズに挑戦

今年1月に新たに加入った東京都の伝統工芸品はなんでしょう

答えは「広報東京都こども版」ウェブサイトでチェック!

もっと詳しい情報は、
広報東京都こども版
ウェブサイトに掲載しています。

ウェブサイトも見てみよう!

広報東京都こども版

<https://www.kodomokoho.metro.tokyo.lg.jp/>

広報東京都こども版について、「こんなことを知りたい」「もっとこうしてほしい」などのご意見や、「こんなところがおもしろかった」など感想を募集しています。ウェブサイトの「みんなの声募集」から送ってね!



東京都こどもホームページ

楽しみながら東京の魅力や都政について知ることができるよ!

東京都こどもホームページ

<https://tokyo-kodomo-hp.metro.tokyo.lg.jp/>

